

# やまぐちっ子の学力向上に向けて

令和6年2月

## やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会

想定を上回る速度で社会が変化し、複雑で予測困難となってきた中、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、子どもたちの資質・能力を育成することが求められています。そのためには、学習指導要領の着実な実施が重要であることから、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるとともに、山口県学力定着状況確認問題を昨年度に引き続きC B T方式※で実施するなど、時代の変化に合わせた学習環境づくりに取り組んでいるところです。

こうした中、令和5年度の全国学力・学習状況調査における本県の結果から、小学校・中学校ともに、自分の考えを深めたり広げたりする授業が展開されてはいるものの、基礎的・基本的な学習内容を実生活の中で活用する思考力・判断力・表現力等の育成や、児童生徒の家庭における学習習慣などに課題が見られます。また、多くの学校において学力に関する格差が見られることも課題となっています。

さらに、いじめ等の問題行動が多様化・複雑化するとともに、不登校の出現率も増加しているため、誰一人取り残されない学びの保障がより一層求められています。

これらの課題を解決し、これからの時代に求められる資質・能力を育成するため、「やまぐち型地域連携教育」を基盤として、「コミュニティ・スクールの連携・協働体制」と「ICT環境」を生かしながら、「学校の『組織力』の充実」、「教員の『授業力』の向上」、「学校・家庭・地域の『連携力』の強化」の3つの柱を軸とした取組をさらに充実・深化させていくことが重要であると考えます。

そこで、「やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会」では、全国学力・学習状況調査をはじめとした各種調査の結果等を手がかりとして、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組を一層充実させ、「自立した学習者」の育成を図るために次の提言をまとめました。

※タブレット端末を用いた調査

# — 提 言 —

## 1 学校の「組織力」の一層の充実

- 課題を解決するため「やまぐち学習支援プログラム」を効果的に活用し、子どもたちの主体的な学習をきめ細かに支援する体制づくりに努めること
- CBTシステムの導入などによりスピード感のある情報提供等に努め、年間2回の検証改善サイクルの徹底を図ること。特に、子どもたちの「つまずき」の要因に迫る誤答分析を重視しながら、課題解決に向けた組織的な学力向上の取組を促進すること
- 求められる資質・能力を子どもたちが身に付けることができるよう「学校・地域連携カリキュラム」を活用したカリキュラム・マネジメントの取組を推進し、「社会に開かれた教育課程」の実現を図ること

## 2 教員の「授業力」のさらなる向上

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、子どもたちが学ぶ楽しさやできる喜びを実感できるよう日々の授業改善を促進すること。その際、「引き出したい振り返り」を意識した授業づくりを推進すること
- すべての子どもたちの可能性を引き出すために、生成AI等を含むICTを効果的に活用した学びとリアルな体験を通じた学びを組み合わせ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組を促進すること
- キャリアステージに応じた研修会等により、教員の資質・能力の一層の向上を図り、校内外において研修の成果の還元・普及に努めること

## 3 学校・家庭・地域の「連携力」の一層の強化

- 児童生徒が参加する学力に関する熟議等を通して、学ぶことの意義や目的を共有し、中学校区で育つ子どもたちの学習習慣や生活習慣の確立に多くの人々が当事者意識をもって関わる取組を推進すること
- 「学校・地域連携カリキュラム」のさらなる活用に向け、コミュニティ・スクールの経営者である管理職がリーダーシップを発揮し、学力課題や子どもたちに求められる資質・能力を学校・家庭・地域で共通理解し、具体的な取組を促進すること
- 接続する学校や幼児教育・保育施設等との連携・協働により、発達の段階に応じた体系的なキャリア教育を推進し、子どもが自己の将来に夢や目標をもち、その実現に向けて自分の強みを生かしながら主体的に学ぶことができる取組を推進すること

本提言をもとに、各市町教育委員会との連携強化を進めるとともに、学校・家庭・地域が一体となった学力向上の取組が一層推進され、「地域の担い手」となる子どもたちの育成につながることを期待します。